



企業訪問レポート

泉州電業株式会社

SENSHU ELECTRIC CO.,LTD.

2020年9月7日訪問



ダウ・チュー・トウイ・チャンさん

週末は趣味のキックボクシングをされて3年目の彼女。タイ・マレーシア・シンガポール・インドネシアを担当。見積もりから打ち合わせ、書類作成から出荷までを。値段交渉も上司と相談しながら対応されているそうです。通関士の資格取得を目指す向上心高い女性です。



ギミレ・ボル・ブラサドさん

ブローバック株式会社のビラジ君とはルームメイトだったとか。同じネパール人で実のお兄さんよりも仲が良かったそう。休みの時は友達と集まって出かけるそうです。研修が終わり現在の部署に。英語の発音ならわかるのですが、カタカナ用語が早口だと聞き取れないとか。

二人とも輸出に関しての窓口業務をされています。ギミレさんは会うよりも電話の方が話がしやすいと。人にもよりますが対面の方が話がしやすいように思うのは日本人だからでしょうか。二人とも責任感を持って時間を守ったり話し方にも注意をしていることで、それらが習慣化できたようです。生活文化の違いで海外の方は時間にルーズなところがあるようですね。自ら実践していくことで当たり前のように習慣が身についたのは素晴らしいですね。チャンさんも実務をこなしながら初めてのことでもどんどん吸収し成長しているそうです。



すでに海外展開をされている泉州電業株式会社様にお話を聞かせて頂きました。電線の知識というのは珍しいものでなかなか知識を持っている方はいないようです。そのために育てていく必要があったようです。国籍に関係なく教育する文化が泉州電業株式会社様にはあったようです。人が必要といってもなぜ必要なのか？ここが大事だと感じました。海外展開をするために人財がいるといったビジョンを持つことが大切ですね。外国人を採用することでお近づきになりにくい宗教的な問題。そういった文化に精通した人材がいることでスムーズに物事が進みます。また英語が話せるという強みもあり海外での交渉も容易になります。なんとといっても彼らの積極性が頼もしく特に困ったことはないとの事でした。タイにおられた国際部長の西村様に現地の違和感についてお話頂きました。日本では当たり前の時間を守るということ。現地の人にはルーズな面が見受けられるようです。またわかったかどうか確認をすると「わかりました」と答えるが実はわかっていなかったり。それはわからないというのは失礼に当たるという人も。こういった微妙なズレを把握して対応していくことが大事だそうです。今後の彼らの活躍を期待したいですね！教育の文化・・・必要ですね！！